

平成28年 5月27日

平成28年度 鈴鹿市立椿小学校校内研修実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	活用型学力を培った文章表現ができる子どもの育成
教科・領域	全教科

2 研究内容及び方法

すべての教科において「書く」活動を取り入れて思考を整理し、書き留めておいたことを利用して、その時々々の条件に応じた言語活動を展開することで、活用型学力を培っていく。そしてその活用型学力を使って、自分の考えや思いを文章を用いて表現ができる児童を育てていく。

①児童の実態把握と環境整備

- ・全国学力学習調査やみえスタディチェック等をはじめとするテストを実施・分析し、児童の文章表現能力の実態を把握する。
- ・児童の語彙を増やすことに努める。正しい日本語を普段の生活の中で積極的に使う取り組みを行う。
- ・平素からノート指導を段階的に行えるよう、「書く」という分野での系統性を図る。
- ・調べ学習に十分応えられるような図書の実装を図る。

②授業づくり

- ・主要教科や総合的な学習の時間に図書室を利用した調べ学習を位置づける。
- ・国語、算数、理科、社会、生活、総合的な学習の時間 において、各学期1単元の重点単元を設定し、課題に取り組みさせる。
- ・教師研修を行い、共通理解を図り、取り組みの報告などを随時行っていく。
- ・個々の指導者が平素の授業を振り返り、よりよい授業スタイルを確立させる。

③基礎学力の向上を図る

文章表現能力の土台、手段にあたるのが、すべての教科活動で行う基礎学力である。そのために、基礎学力の向上に努めたい。

国語科 <朝のチャレンジタイムを活用した表現する力の育成>

朝のチャレンジタイムの時間に表現力を育成する時間を設定する。例えば、読書活動を発展させ、読んだ本の内容を交流し合ったり、記録に書いたりすることで、アウトプットの力をつける機会の場とする。

算数科 <椿タイム>

月一回、算数の既習内容の繰り返し学習の時間を設ける。既習内容なので、どの子どもにもやればできるという自信をもたせることができる。また、つまづいた内容を何度でも取り組むことで補充学習になり、記録を残してファイリングしていくことで自分の記録の伸びを自分で実感することができる。

<家庭学習の推進>

学習の手引きを作成し、各家庭に協力をもとめ、家庭学習の推進を図る。子どもたちにも配布し、機会をとらえて、家庭学習の大切さを話し、習慣化を図る。また、家庭での読書の推進も図書館教育と連携し、進めていきたい。また、中学校区の家庭学習の取り組みとの連携も図り、進めていきたい。

④教職員の共通理解のもと研修を進める。

全教職員の共通理解のもと、同じ視点で子どもをみていくために研修会を催し、日々の実践に生かしていく。

(校内での研修会・講師を招いての参加型研修会・各種研修会の還流学習会)

3 年間研修計画

<p>一 学 期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修テーマ、方策について 研究方法の共通理解 ・全国学力学習調査採点 ・みえスタディチェック採点 ・購入図書の充実 ・授業研究 全体研 4年 7 / 4) ・広報活動 (学校だより・ホームページ) ・環境整備 掲示物 ・各種研修会環流学習会 ・海の学校との交流, ブラジル学校との交流など ・環境整備 ・校内参加型研修会 (問題作り出前研修) ・算数いきいき教室 開催3日間 ・夏季人権・国際・特支研修会 ・椿ワールドについて学習会 ・ICT研修 電子黒板の利用・英語新教材についての研修・
<p>二 学 期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動 ・環境整備 ・交流活動 ~修学旅行・社会見学・総合・生活科~ ・授業研究 全体研 1年 10 / 5) ・授業研究 全体研 5年 11 / 28) ・県外研へ出かけて先進校を視察する。環流学習 ・各学年実践交流 ・朝のチャレンジタイム 強化週間
<p>三 学 期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県外視察 ・広報活動 ・環境整備 ・国際交流活動 椿ワールド1月28日(土) ・人権教育研修 学級の様子・取り組みについて 1月(冬季休業中) ・スタディチェックの結果分析 ・還流学習会 ・今年度の研修の反省とまとめ(研修・人権共生教育) ・研究紀要・資料集作り 3月 ・平成29年度の研修計画